

“エクアドル野球チーム新潟遠征プロジェクト”を終えて

＜にいがた青年海外協力隊を育てる会＞

○会長 平山征夫（新潟国際情報大学長）



「エクアドルに伝われ！新潟野球の心」

8月下旬にエクアドルから招いた少年野球チームと新潟のチームなどと交流出来たことは大変意義深いことでした。ホームステイも大変良い経験だったようで、新潟市での歓送迎会でも宿泊家族との別れを惜んでいる姿が印象的でした。改めて「人間同士って国も宗教も関係なく仲良くなれるのだなあ。それなのにどうして戦争はなくなるのだろうか。」と感じました。

エクアドルに本県から野球指導で派遣された齋藤隊員から「指導しているエクアドルの少年野球チームを新潟に招聘して日本の野球を直に学ばせたい。運動神経は優れているけれどチームプレイやフェアプレイの精神が身に付かない、新潟のチームと練習・試合をさせて学ばせたい」という熱い思いが寄せられたのがこのプロジェクトの始まりでした。「にいがた青年海外協力隊を育てる会」もすぐ支援を決めました。はじめ資金集めに苦労しましたが、協力の輪が広がり無事このイベントを実行できた現在深い達成感とともに、エクアドルの少年たちの輝く眼と一緒に良い思い出が出来たと喜んでいきます。これが両国の野球交流の“プレイボール”になればと願っています。

○事務局長 横山容司郎

「みんな無事に帰国出来て良かった」

齋藤勇太エクアドル隊員から「自分の教え子たちを新潟に連れて行きたい」というお話は、実は派遣前訓練の前に育てる会の総会後の懇親会の席でお聞きしました。（覚えていらっしゃる方もいるかと思いますが）その頃は無理だろうと思っていました。しかし、彼の意志に賛同した友人たちの本気さ知ったとき、これは実現できると思いました。

協力隊員として現地に赴任し、誰もが感じること、「日本を見せてやりたい！」を実現することは多くの協力者がいないとできません。ましてや10数人も日本に連れて行くとなると大変です。それを実現してしまった齋藤隊員と彼の友人たちに敬意を表します。

そして、このプロジェクトにご協力を頂いた皆様に心より感謝申し上げます。

＜遠征実施者＞

○齋藤勇太 氏／青年海外協力隊／エクアドル共和国グアヤキル市

「にいがた青年海外協力隊を育てる会の皆様へ」

8月20日から9月1日まで行なわれたエクアドル野球チーム新潟遠征プロジェクトですが、皆様のおかげで無事終了することが出来ました。日本時間の2日夕方、参加者全員無事にエクアドルに戻って参りました。

昨年10月、貴団体の理事会にて初めてお伝えさせて頂いた本企画。何の保証もない準備段階から先日遠征が終了するまでの約10カ月間、根気強くご指導とご支援頂いたことにただただ感謝致します。とびぬけて明るくマイペースな人が多いラテン系のエクアドル人。今回の遠征は彼らにとって一生の宝になったことは間違いないですが、同じように関わった日本人の方にも何らかの良い思い出になったのであれば嬉しい限りです。

私のエクアドルでの生活も残り4カ月となりました。まだまだ上手いいかないことも多いですが、この遠征の経験と喜びを胸に選手と共に私自身が成長できるよう精進致します。

改めましてこの度はプロジェクト実行にあたりご尽力頂き、誠にありがとうございました。今後とも宜しくお願い致します。(2014/09/06)



<エクアドルチームを新潟へ誘致する会（プロジェクト日本事務局）>

○代表 清野友二 氏／会社員／新潟市

「感謝」

エクアドルチームを新潟へ誘致する会の清野友二と申します。この度は本プロジェクトを実施するにあたり多大な御支援、御協力を賜りまして、心より御礼申し上げます。

8月20日から9月1日までの約2週間、齋藤勇太エクアドル隊員の引率の下、エクアドルの子ども達を新潟に招致し、野球を中心とした国際交流を行いました。短い期間ではありましたが、日に日に成長してゆくエクアドルの子ども達、またその過程と成長に確かな手応えを感じている齋藤隊員の姿を見て、私自身、共に学び成長させて頂いたと強く感じております。また、本活動に携わった日本の高校生や大学生、子ども達にとっても、かけがえのない貴重な体験になった事は間違いありません。これも平山会長をはじめ、青年海外協力隊を育てる会の皆様、青年海外協力隊OBの皆様方の御協力あっての賜物と感じております。

本活動に携わって頂いた全ての皆様に心より感謝御礼を申し上げます。同時に、本プロジェクトが未来の子供達の一助になりますよう心より願っております。

○副代表 高橋秋人 氏／会社員／胎内市（平成21年度2次隊・エクアドル・PCインストラクター）

「この遠征をおこなって本当によかった」

にいがた青年海外協力隊を育てる会、会長平山様をはじめ関係者各位のご尽力頂いたおかげで、多くの団体・企業様、個人の方々にご支援を受けることができ、事故もなく無事に遠征を終えることができました。

日本にて交流を行った中高生やホームステイを受け入れて下さったご家族の方々も快くエクアドル野球少年たちを受け入れてくれて、みなさんから「本当によかった」や「楽しかった」「出会えてよかった」などのお言葉を耳にしたときは、エクアドル少年たちだけでなく、日本の、新潟のみなさんにも有意義なことだったのだと実感させて頂くことができ、この遠征を行なって本当によかったと思いました。

今回遠征に関わって下さった皆様、ご多忙にも関わらずご尽力頂いた事を重ねて御礼申し上げます。

○吉岡大輔 氏／団体職員／東京都（平成11年度派遣・エクアドル・野球）

「今回のエクアドル野球チームの来日に関して」

JOCVエクアドル隊員として帰国後、10年以上が経過した中でこのような取り組みに携わる機会を頂いた齋藤隊員、事務局メンバーの仲間から感謝しています。

エクアドルではまだ野球は一部の地域のみで行われているいわばマイナースポーツです。今回の遠征に参加した現地の子どもたちをきっかけの一つとしてエクアドル野球が発展することを心から祈っています。野球とエクアドルが私の人生にとって、大きな影響を与えたことは間違いありません。支援にはゴールはないと思っていますので、引き続き、恩返しのためエクアドル野球を支えていきたいと思えます。

最後になりますが、ご協力頂いた新潟の方々にも心より感謝申し上げます。

○甲斐俊行 氏／教員／神奈川県（平成19年度2次隊・エクアドル・野球）

「エクアドル新潟遠征プロジェクトの感想」

今回の日本遠征ではありがたいことに沢山のグラウンドで野球を行わせてもらうことが出来ました。エクアドルの野球選手と日本の中学生、高校生、大学生たちが一緒に野球をプレーしているグラウンドの中では言葉が通じなくても身振り手振りでコミュニケーションを取ったり、野球の動作で伝えたい思いをわかりあっている姿にスポーツの力の素晴らしさや魅力を改めて感じました。そこにはそれぞれの国の言葉でなくスポーツに真摯に取り組む野球選手たちの想いが繋がり、会話となっていたように感じました。

このプロジェクトにご支援、ご協力して頂きました方々に心より御礼申し上げます。皆様から頂いた一人ひとりの思いが大きな力となり、輪となって今回の日本遠征の実施と、また成功に繋がったことと強く感じております。誠にありがとうございました。（Muchas Gracias）

今後とも、にいがた青年海外協力隊を育てる会の活動にご理解とご協力をお願い申し上げます。

2014年9月

にいがた青年海外協力隊を育てる会事務局